社会福祉法人
大念仏寺
社会事業団

★ボ・ドーム大念仏
★いちょう保育園
★大念仏乳児院
★いちょうベビーセンター
★ひらのドリーム園

季刊誌 つぼみ

4月から6月

第4号
平成21年（2009）12月1日
発行所　社会福祉法人
大念仏寺社会事業団
発行人　理事長　杉田善久
編集協力
藤森雄介　淑徳大学
国際コミュニケーション学部
渡邉義昭　淑徳大学　総合福祉学部

施設紹介

いちょうベビーセンター

明るく元気な子・自主性のある子・思いやりのある子

≪保育理念≫
いちょうベビーセンターは児童福祉法に基づき保育に欠ける乳幼児を保育することを目的としている児童福祉施設です。
保育は、入園する乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することを理念としています。

≪保育の基本方針≫
家庭や地域社会と連携を図り、子どもたちが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を充分に発揮しながら活動できるよう健全な心身の発達を図り、豊かな人間性を持った子どもを育成します。
また、地域における子育て支援のために、乳幼児などの子育てに関する相談に応じ助言します。

≪保育の目標≫
・子どもの生命を守り、健全な心身の発達を養う
・健康、安全などの生活に必要な基本的習慣や態度を養う
・人に対する愛情や信頼感、思いやりの心を育み、自主協調の態度を養う
・言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度を養う

≪年間行事≫
入園式・万部参拝・春の遠足・夕涼み七夕会
プール開き・保育参観・敬老の日の集い
秋の遠足・プチ運動会・公園散歩・餅つき
クリスマス会・たてわり保育・節分（豆まき）
ひな祭り・園外保育・お別れ会・いちご狩り
・内科検診・歯科検診・身体測定・避難訓練

「大念仏寺社会事業団の役割」

大念仏寺社会事業団
理事　弁護士
植田　勝博

大念仏寺社会事業団は、母子支援事業からボ・ドーム大念仏、家族との生活が困難な高校生児童を保護するなどを経験しながら成長する自立援助ホーム、乳児院、保育園、ベビーセンター、ドリーム園と次々に事業を広げ、全国から、福祉の現場を学ぶ場として見学者を受け入れ、往時とは隔世の感があります。

しかし、何よりも、そこで、乳児院から成人前の寄辺に引き継がれました。杉田理事長と職員の思いである様方が日々生活をし、成長する場です。そのなかなかにボ・ドームが地域の皆様に開かれた場所としてその交流と活動の場を提供する機能を担うことができることを大いに期待致します。

会い、どんな友達や先生方が居て、どんな面白い人や大人の人達と巡り会い、どんな楽しいことが、どんなに悩むことを体験することを目標でいるのが子ども達の生活です。1日2名ずつ、順番にお水をあげていきました。初めての経験に笑顔いっぱい。

こぼしながらも、ジョーロで一生懸命お水をあげる姿はとても可愛らしかったです。

今では毎日のように色付くトマトを子ども達に収穫してもらって、食事時に食べています。自分達で育てた野菜の味は格別だよね！

私は、人との巡り会いを大事にし、仏教の深淵な教義を体現することを目標でいただいたらと思います。自分を生かし、他人を生かし、社会を生かし、豊かな世界を求めたいと思います。ここで過ごした皆様が、豊かな心をもって社会に成長して頂きたく、困難な社会の中でくじけることがあっても、その向こうに光があることを信じて頂きたいと思います。そして、ボ・ドームの故郷を懐かしく、熱く思い出して貰えたら、そんな大念仏寺社会事業団であってほしいと思います。

大念仏寺社会事業団は仏様の精神を基にしておりますが、

沿革

・昭和46年３月25日　いちょうベビーセンター　認可
・平成15年５月20日　ベビーセンター棟屋上防水工事及び保育室床暖房改修工事　施工
・平成17年９月９日　炊事場及び西側通用門改修工事　施工
認可定員60名（０～２歳児）　現在に至る

入園式・春の遠足・プール開き・みかん狩り・プチ運動会・園外保育など色々な体験を通してみんな大きく成長していきます。季節感のある行事や日本古来の風習なども行事を通してかかる体験型保育をモットーとしております。

～　もくじ　～

1面　巻頭言（植田勝博弁護士）
いちょうベビーセンター「施設紹介」
2面　ひらのドリーム園
ご寄附・ご寄贈者
3面　ボ・ドーム大念仏
つぼみ通信（ドレミ広場）
4面　大念仏乳児院
いちょう保育園
編集委員会手帳

大念仏乳児院

ベランダで昼食会

4月のある晴れた日、心地良い春風に誘われベランダにて昼食会を行う事にしました。

メニューは、「そばメシ」です。

ポカポカ陽気に、途中で居眠りをしてしまいそうになる子も居ましたが一皿食べ終えてはおかわりをもらいに行く子ども達。

外の空気を吸いながらたくさん食べました！

子どもの日の行事

今年も、何組かの親御さんに参加してもらう事が出来ました。

みんなで「こいのぼり」を一緒に歌った後は、今年度の新入職員を中心に「あたま・かた・ひざ・ポン」と「お時計さん」の手遊びをしました。

日頃から練習していた手遊びだったので、子ども達も上手に歌いながら参加してくれました。その後はお待ちかねのおやつタイム！

この日のために作ってもらったケーキやゼリー、ムースにフルーツ、自分の好きなものを選んでたくさん食べました。

桜の木の下で

今年の大念仏寺にも、見事に桜がピンク色の花を咲かせました。

この時期になると毎年行っているのが、桜のお花と一緒に記念撮影。

最も春を感じさせてくれる、素敵な写真が沢山撮れました。

トマトを植えたよ

5月、昨年に引き続いてプチトマトの苗を植えました。

枯れないように、毎日お水をあげるのは子ども達の仕事です。

1日2名ずつ、順番にお水をあげていきました。初めての経験に笑顔いっぱい。

こぼしながらも、ジョーロで一生懸命お水をあげる姿はとても可愛らしかったです。

今では毎日のように色付くトマトを子ども達に収穫してもらって、食事時に食べています。自分達で育てた野菜の味は格別だよね！

いちょう保育園

入園式

今年度の新入園児は44名！

"入園おめでとう"の声に恥ずかしそうにお父さん、お母さんの後ろに隠れたり、下を向いて頬を赤らめていました。

ちょっぴり大きめの制服姿がとても可愛く映っていました。

これからの生活に胸を膨らませている子ども達でした。

春の遠足

バスに乗って「おもちゃ王国」へ親子遠足に出掛けました。

バスの中ではゲームをしたり、歌や手遊びをして過ごし、現地に到着すると「着いた～！」「やったぁ～！」と大喜びしていました。

園内では乗り物に乗ったり、色々なおもちゃで遊んだり、美味しいお弁当を食べたりと家族や友達と一緒に存分に楽しんでいました。

お誕生会

毎月、その月のお誕生日を全クラス集まってお祝いしています。お誕生児はみんなの前に出て、クラス・名前・お誕生日を発表します。大きな声でカッコよく言える子、モジモジしてなかなか言えない子。おちょけて笑いを誘う子あいさつ後は、みんなから大きな拍手をもらいとても満足気にうれしい表情を見せてくれます。

その後は、各クラスや保育士の発表です。一年間を通して数回、順番に遊戯や手品等色々な出し物が楽しめます。4、5月は、松組の『バネル遊び』、6月は竹組の『形遊び』をしました。みんな可愛く元気に発表してくれました。

と様々ですが、

編集委員会手帳

「季刊誌つぼみ」もようやく第4号発行となりました。

初めて私達の手で作る季刊誌…。最初は編集などかどうか不安がありましたが、最近になりようやく少しずつ慣れてきたかなぁと思っています。

行事の真を見て、子ども達の笑顔を思い出しながら、その様子を見ることができたっていると、そうッコよくと言える時に一緒になって出来事も一緒になって思い浮かべて来ます。子ども達の素朴な発言を思い出して、吹き出しそうになる時もあります。

こうやって振り返る事で改めて、大切な思い出を胸に深く刻みつけることが出来るんだなぁという事に気付きました。貴重な体験をさせて頂いていると感じつつ微力ながらもこつこつ頑張っていきたいと思います。

入園時おぼつかなかった事が、あれもこれも出来るようになっている、目まぐるしい成長を確かめる事が出来る4号を発表する手引が出来た。もう4号かと言う思いであるが、内容について「まだ4号だから…」ではなく「まだ4号なのに…」と思って頂けたのだろうか？

子ども達の成長だけでなく、保育者側も季刊誌の記事も共に成長をしたいと思う。

いちょう保育園M

原稿〆切の日が過ぎていた。まだ日があるからと後回しにしていたのだ。日の経つのは早いもので年を重ねるほどに早く感じられるとか。

園児の成長もしかり。入園時おぼつかなかった事が、あれもこれも出来るようになっている、目まぐるしい成長を確かめる事が出来る4号を発表する手引が出来た。もう4号かと言う思いであるが、内容について「まだ4号だから…」ではなく「まだ4号なのに…」と思って頂けたのだろうか？

子ども達の成長だけでなく、保育者側も季刊誌の記事も共に成長をしたいと思う。

大念仏乳児院E

うやく第4号発行となりました。

初めて私達の手で作る季刊誌…。最初は編集などかどうか不安がありましたが、最近になりようやく少しずつ慣れてきたかなぁと思っています。

行事の真を見て、子ども達の笑顔を思い出しながら、その様子を見ることができたっていると、そうッコよくと言える時に一緒になって出来事も一緒になって思い浮かべて来ます。子ども達の素朴な発言を思い出して、吹き出しそうになる時もあります。

こうやって振り返る事で改めて、大切な思い出を胸に深く刻みつけることが出来るんだなぁという事に気付きました。貴重な体験をさせて頂いていると感じつつ微力ながらもこつこつ頑張っていきたいと思います。

入園時おぼつかなかった事が、あれもこれも出来るようになっている、目まぐるしい成長を確かめる事が出来る4号を発表する手引が出来た。もう4号かと言う思いであるが、内容について「まだ4号だから…」ではなく「まだ4号なのに…」と思って頂けたのだろうか？

子ども達の成長だけでなく、保育者側も季刊誌の記事も共に成長をしたいと思う。

いちょう保育園M